

1 調査の概要

- (1)調査期日 令和8年4月23日(木)
※中学校英語はMEXCBTを用いたオンライン方式により、
4月20日(月)～23日(木) (「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、4月24日(金)～5月29日(金) (「話すこと」)の指定された日に実施。
- (2)調査内容 児童生徒に対して、教科に関する調査と質問調査を実施。学校に対して、質問調査を実施。

2 結果の概要(教科別平均正答率)

※同一集団による経年比較

※本市の結果のうち、黒字は全国を上回った教科、赤字は下回った教科。
※全国の平均正答率のみ、小数第1位まで公表されている。
※数値は公立校の結果を示したもの。
※中学校英語については、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で換算。(IRTスコア)

		小学校第6学年						中学校第3学年									
		国語		算数		理科		国語		社会		数学		理科		英語	
R8	大分市	64		59				64				56				492	
	(平均正答数)	8.3/13		9.5/16				9.6/15				8.9/16				4.3/9	
	大分県	63		58				64				55				483	
	(平均正答数)	8.2/13		9.3/16				9.5/15				8.8/16				4.1/9	
	全国	60.9		56.4				63.9				57.0				499	
R7	(平均正答数)	7.9/13		9.0/16				9.6/15				9.1/16				4.5/9	
	大分市 (小5・中2時) 大分県学力定着状況調査	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
		51.0	51.2	51.5	51.5	51.6	50.8	51.8	51.0	51.5	50.9	51.0	50.4	52.5	52.0	50.6	49.7

- 令和8年度全国学力・学習状況調査 【全国平均以上(平均正答率)を達成した教科数】・・・3/5 (60%)
- 令和7年度大分県学力定着状況調査 【全国平均以上(偏差値50以上)を達成した教科数】・・・15/16 (93.8%)

調査結果

<平均正答率・正答数>

	大分市	大分県	全国
正答率	64	63	60.9
正答数	8.3/13	8.2/13	7.9/13

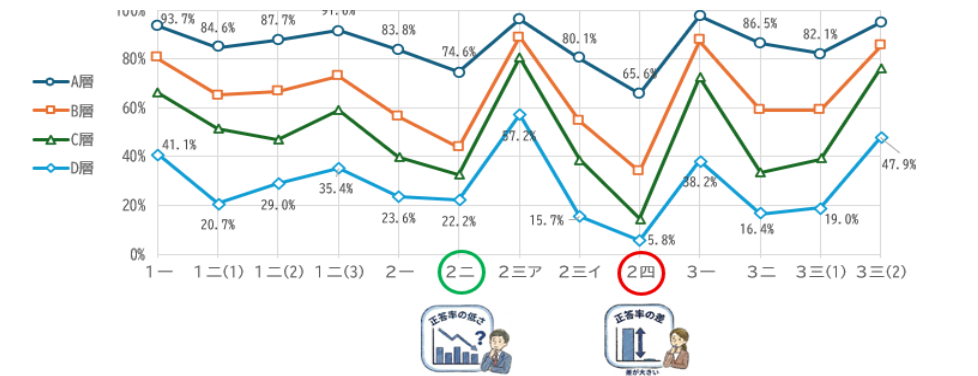
<領域別平均正答率>

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使いに関する事項	72.2	69.9	66.8
情報の扱いに関する事項	53.5	53.6	52.3
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	67.3	66.9	65.8
書くこと	47.7	45.4	45.7
読むこと	68.5	68.5	65.9

<A～D層別 問題ごとの正答率>

小学校国語科におけるA層（10～13問）、B層（8～9問）、C層（6～7問）、D層（0～5問）の問題ごとの正答率をグラフ化しており、「正答率の低い問題」と「正答率の差が大きい問題」をアイコンで示している。

問題番号	1ー	1二(1)	1二(2)	1二(3)	2ー	2二	2三ア	2三イ	2四	3ー	3二	3三(1)	3三(2)
正答率 (%)	大分市 75.6	62.0	64.3	70.5	58.0	49.6	84.6	54.5	37.5	79.4	57.3	56.8	80.2
	全国 73.9	60.2	63.2	65.2	57.9	48.9	80.0	45.2	33.5	76.7	55.6	55.5	76.4



<指導改善のポイント>

- 本問題においてはD層の無解答率が13.4%、C・D層の誤答率が89.7%であり、指定された条件をもとに必要な情報を抜き出し、自分の考えを形成、記述することに課題がある。指導に当たっては、「自分の考えを調べたことと一緒に伝えれば、説得力のある文章になりそうだ。」など、引用する目的を児童が自覚できるようにするとともに、集めた情報の中から、必要な語句や文に着目して引用した部分と自分の考えを区別し、自分の考えが伝わるような文章を書くことができるようにすることが求められる。
- (支援の工夫)
- ・ 既習事項を振り返り、引用に関する基本的なきまりを確認する。
- ・ 既習事項を振り返り、引用に関する基本的なきまりを確認する。【引用に関する知識・理解】
- ・ 引用する部分と自分の考えがどのようにつながるのかを整理する。【関連付け】

課題が見られる問題

【学習指導要領における領域】書くこと（１）エ
【出題の趣旨】引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる。



2 四 正答率 37.5%

A層65.6% B層33.8%
C層14.7% D層 5.8%

- ①「集めた情報」の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
- ②ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかきかっこ（「」）でくること。
- ③ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
- ④百四十文字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の書き方】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という事には、「青は涼や水を感じさせ、すずしさに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、暑さでもすずしく過ごすことができそうだ。

また

5 暑わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、暑さを感じさせる「青」や、涼しい印象がある、青があたりなく感じられるのは、太陽や火を感じさせるからだ。

白は熱や火を感じさせるため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や火を吸収しやすい。熱くなりやすい。

(参考文：花山)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は涼や水を感じさせ、すずしさに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。青があたりなく感じられるのは、太陽や火を感じさせるからだ。
太陽と火	白は熱や火を感じさせるため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や火を吸収しやすい。熱くなりやすい。
夏の過ごし方	青や白は涼や水を感じさせる。すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

(正答例)
青は青でも、うすい青を選んで着るとよさそうだ。なぜなら、「夏のくらし方」には、「白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。」と書かれているからである。(111字)
※正答の条件…条件①～④を満たして解答している。

(誤答例)
①白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。(64字)
②「夏のくらし方」には、「白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。」と書かれている。(78字)
<誤答の傾向>
① 条件③は満たしているが、条件①・②を満たしていない。引用した部分と自分の考えを区別せず、【集めた情報】の内容を自分の考えのように書いたと考えられる。
② 条件①・②は満たしているが、条件③を満たしていない。自分の考えをどのように書き表せばよいか分からなかった、または、書く時間が足りなかったと考えられる。

調査結果

※本市の結果のうち、赤字は全国平均を下回ったもの

<平均正答率・正答数>

	大分市	大分県	全国
正答率	59	58	56.4
正答数	9.5/16	9.3/16	9.0/16

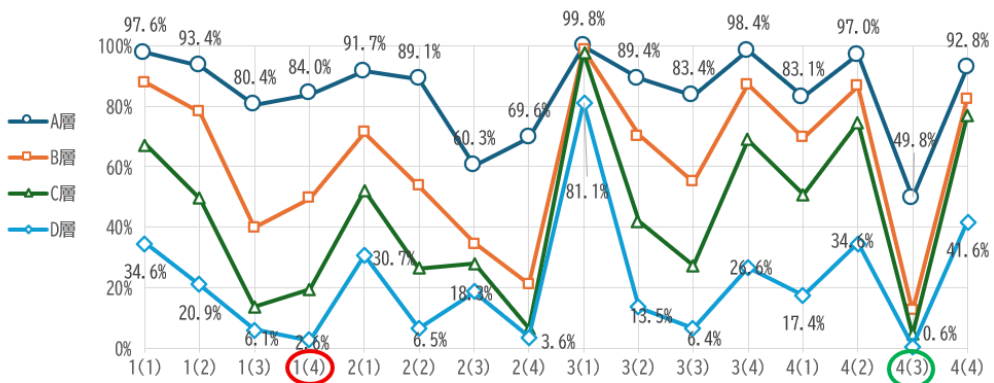
<領域別平均正答率>

領域	大分市	県	全国
数と計算	63.6	62.3	61.1
図形	58.6	56.5	55.3
測定	78.8	77.9	78.1
変化と関係	40.9	39.1	41.1
データの活用	51.9	50.6	48.6

<A～D層別 問題ごとの正答率>

小学校算数教科におけるA層（10～14問）、B層（7～9問）、C層（3～6問）、D層（0～2問）の問題ごとの正答率をグラフ化しており、「正答率の低い問題」と「正答率の差が大きい問題」をアイコンで示している。

問題番号	1(1)	1(2)	1(3)	1(4)	2(1)	2(2)	2(3)	2(4)	3(1)	3(2)	3(3)	3(4)	4(1)	4(2)	4(3)	4(4)
正答率 (%)	大分市 78.1	67.4	42.2	46.7	67.2	51.9	39.2	31.6	96.0	61.0	50.8	76.9	61.2	78.8	21.6	77.8
	全国 72.7	63.0	40.1	45.2	66.5	53.1	36.1	34.2	94.5	58.1	44.0	68.1	56.2	78.1	17.9	74.9



<指導改善のポイント>

D層の無解答率が18.3%、C・D層の誤答率が88%と誤答の傾向が強く、小問でありながらも課題をつかむまでの展開が長くなっていることや日常生活に関連した場面での課題設定であることから、問題の主旨がつかめず、問いに対する説明ができていないことが要因であると考えられる。「図形」の授業場面においては、生活の中にある形や箱等を立方体や直方体と関連付けながら課題を設定し、図形を構成する要素に着目して問題を的確に把握、共有した上で、解決に取り組む授業展開が大切である。

(支援の工夫)

- 日常生活の中から様々な立体を見だし、どのような性質を活用しているかを考えさせる。
- 【日常の事象と図形の性質の捉えなおし】

課題が見られる問題

【学習指導要領における領域】B図形（2）（ア）

【出題の趣旨】日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え示された条件を基に調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。



1 (4) 正答率 46.7%

A層84.0% B層49.4%
C層19.3% D層2.6%

(4) はやどさんは、図2のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。

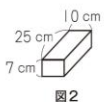


図2

A社の宅配便で送るとき、直方体の荷物の送料は、3辺の長さの合計で決まります。

3辺の長さの合計を求める式

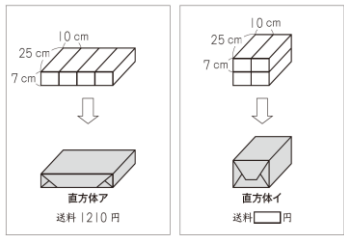
$$\text{縦の長さ} + \text{横の長さ} + \text{高さ}$$

3辺の長さの合計が100 cm以下の荷物の送料は、下の表のとおりです。

A社の送料	
3辺の長さの合計	送料
60 cm以下	920 円
60 cmより大きく80 cm以下	1210 円
80 cmより大きく100 cm以下	1510 円

図2のおかし1箱の場合、3辺の長さの合計は、 $25 + 10 + 7 = 42$ で42 cmです。42 cmは60 cm以下なので、送料は920 円です。

はやどさんは、図2のおかし4箱をまとめて紙で包み、1つの直方体の荷物にして送ります。まとめ方によって送料にちがいがああるかを調べるために、下の2つのまとめ方でできる直方体Aと直方体Bの送料を求めることにしました。



直方体Aの送料は1210 円です。

直方体Bの送料は何円ですか。

直方体Bの送料の求め方を

- ・3辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）
- ・3辺の長さの合計

がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。

また、送料が何円になるのかも書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。

(正答例)

・直方体Bの3辺の長さは、それぞれ25cm、 $10 \times 2 = 20$ で20cm、 $7 \times 2 = 14$ で14cmです。3辺の長さの合計は、 $25 + 20 + 14 = 59$ で、59cmです。59cmは60cm以下なので、送料は920円です。

(誤答例)

① $25 + 10 + 7 = 42$ で42cmです。42cmは60cm以下なので、送料は920円です。

② 送料920円と解答しているが、図2の直方体の箱の3辺のそれぞれの長さや3辺の長さの合計を書いている。

<誤答の傾向>

① 図2の直方体の三つの辺のそれぞれの長さや三つの辺の長さの合計を誤って記述しており、送料については、920円以外の解答又は無解答である。

② 図2の直方体の三つの辺のそれぞれの長さや三つの辺の長さの合計を誤って記述しており、示された表から図2の直方体の送料を求めている。

調査結果

※本市の結果のうち、赤は全国平均を下回ったもの

<平均正答率・正答数>

	大分市	大分県	全国
正答率	64	64	63.9
正答数	9.6/15	9.5/15	9.6/15

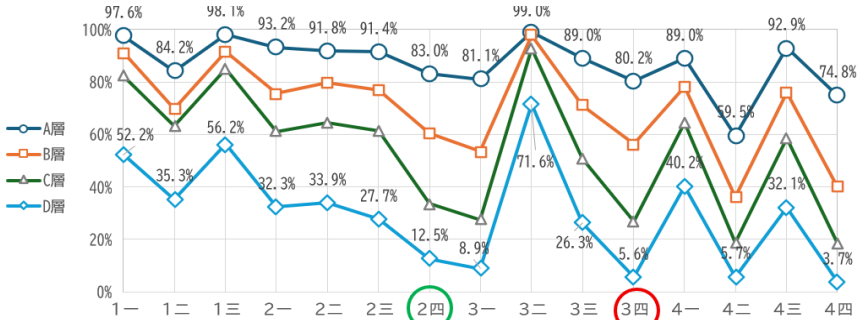
<領域別平均正答率>

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.3	62.3	63.0
情報の扱い方に関する事項	68.2	68.3	70.4
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	64.1	64.1	63.9
書くこと	67.4	67.0	67.4
読むこと	59.6	60.0	59.7

<A～D層別 問題ごとの正答率>

中学校国語科におけるA層（12～15問）、B層（10～11問）、C層（7～9問）、D層（0～6問）の問題ごとの正答率をグラフ化しており、「正答率の低い問題」と「正答率の差が大きい問題」をアイコンで示している。

問題番号	1一	1二	1三	2一	2二	2三	2四	3一	3二	3三	3四	4一	4二	4三	4四
大分市	83.5	66.2	85.3	69.5	71.0	68.2	51.9	47.5	91.9	63.2	47.0	70.9	33.7	68.8	39.1
全国	84.3	70.2	85.4	68.5	70.4	70.4	52.7	39.8	92.3	65.0	45.0	71.6	35.2	68.7	38.9



<指導改善のポイント>

D層の無解答率が41.6%、C・D層の誤答率が54.9%であることから、「書くこと」の授業場面における「共有」について、効果的な学習活動が展開されていないことに課題があると考えられる。こうしたことから、「書くこと」における「共有」の場面では、「書き手の気持ちがよく伝わってきた表現はどこか。」など、表現の工夫とその効果などの視点を明らかにした交流を行い、読み手からの助言等を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

- （支援の工夫）
- ・ 他者の表現の工夫やその効果などをメモするワークシートを準備し、共有後に自分の文章を振り返る視【他者と自分との比較】
- ・ 本単元で学んだことを振り返り、次の書くことで生かしたい点を自分の言葉でまとめる。【振り返りと活用の場】

課題が見られる問題

【学習指導要領における領域】書くこと（1）ウ

【出題の趣旨】表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる



【3四】正答率 47.0%

A層80.2% B層56.3%
C層26.7% D層 5.6%

③

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

④

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑤

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑥

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑦

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑧

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑨

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑩

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑪

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑫

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑬

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑭

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑮

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑯

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑰

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑱

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑲

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

⑳

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉑

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉒

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉓

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉔

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉕

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉖

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉗

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉘

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉙

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉚

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉛

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉜

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉝

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉞

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㉟

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊱

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊲

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊳

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊴

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊵

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊶

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊷

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊸

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊹

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊺

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊻

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊼

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊽

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊾

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

㊿

「よい点や改善点」を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見だし、次の書く活動へ生かすことが求められる。

- （正答例）

・〈よい点や改善点〉スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉読み手の印象に残るように比喻を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。
- （誤答例）

・〈よい点や改善点〉スケッチブックを「相棒」と人のように表現して、読み手に印象付けることができた。

〈生かしたいこと〉次回の随筆もがんばって書きたい。

<誤答の傾向>

〈よい点や改善点〉については、【1段落についての交流場面②】での山田さんや田中さんの発言を基にして、「相棒」と表現したことについて書くことができているが、〈生かしたいこと〉については、山田さんの「『相棒』よりふさわしい比喻もあるのではないか」という言葉に着目して書くことができていない。去のことについて書くことを理解できていない。

調査結果

※本市の結果のうち、赤字は全国平均を下回ったもの

<平均正答率・正答数>

	大分市	大分県	全国
正答率	56	55	57.0
正答数	8.9/16	8.8/16	9.1/16

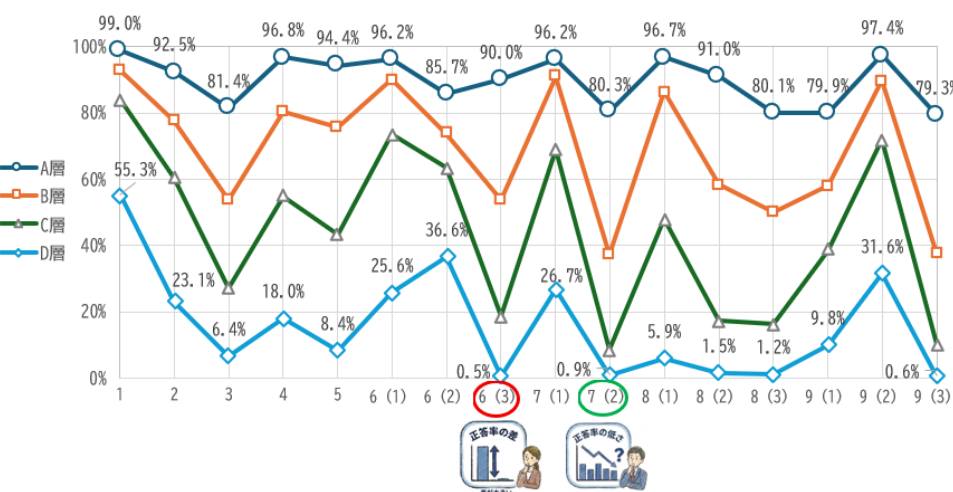
<領域別平均正答率>

領域	大分市	大分県	全国
数と式	65.9	65.4	67.8
図形	45.9	43.5	48.7
関数	56.2	55.2	54.8
データの活用	52.8	52.8	53.5

<A～D層別 問題ごとの正答率>

中学校数学科におけるA層(13～16問)、B層(10～12問)、C層(5～9問)、D層(0～4問)の問題ごとの正答率をグラフ化しており、「正答率の低い問題」と「正答率の差が大きい問題」をアイコンで示している。

問題番号		1	2	3	4	5	6 (1)	6 (2)	6 (3)	7 (1)	7 (2)	8 (1)	8 (2)	8 (3)	9 (1)	9 (2)	9 (3)
正答率 (%)	大分市	83.8	64.9	43.1	63.8	56.4	72.9	65.9	41.8	71.9	32.8	60.2	42.8	37.6	48.0	73.8	33.0
	全国	85.7	70.5	49.1	55.3	60.2	73.2	65.0	44.6	75.2	33.9	62.5	46.1	37.1	46.0	75.8	31.9



<指導改善のポイント>

A層の正答率が90%である一方、C・D層の無解答率が55.8%、誤答率が88.9%であることから、特にC・D層の生徒が、授業の中でも、 $91 \times (\text{選んだ2数の差})$ の形にすればよいという見通しをもって、式を変形できるようにする支援が必要である。

- (支援の工夫)
- 具体的な数で予想したり、その予想が成り立つことを確認したりする場面を設定する。【具体数による予想】
 - 前提と結論を明確にして、説明に必要な要件についての見通しをもつ。【前提と結論の明確化】

課題が見られる問題

【学習指導要領における領域】A 数と式 (1) (イ)
【出題の趣旨】統合的・発展的に考え事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。



【6(3)】正答率 41.8%

A層90.0% B層53.9%
C層18.6% D層0.5%

- 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。(例: 1と2)
- 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。(例: 212)
- 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。(例: 121)

(3) 7ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを文字を用いて説明した陸斗さんと夏帆さんは、次に、手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを考えることにしました。

選んだ2数が1と3のとき、 $A-B = 313 - 131 = 182$
選んだ2数が4と7のとき、 $A-B = 747 - 474 = 273$
選んだ2数が5と9のとき、 $A-B = 959 - 595 = 364$

二人は、 $A-B$ の値について話し合っています。

陸斗さんと夏帆さんは、上の手順にしたがってできたAとBについて、 $A+B$ の値がどんな数になるかを調べました。

選んだ2数が1と2のとき、Aは212、Bは121となり、 $A+B = 212 + 121 = 333 = 111 \times 3 = 111 \times (1+2)$

選んだ2数が3と5のとき、Aは535、Bは353となり、 $A+B = 535 + 353 = 888 = 111 \times 8 = 111 \times (3+5)$

選んだ2数が2と7のとき、Aは727、Bは272となり、 $A+B = 727 + 272 = 999 = 111 \times 9 = 111 \times (2+7)$

これらの結果から、陸斗さんは次のように予想しました。

陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、 $A+B$ の値は、選んだ2数の和の111倍になる。

夏帆さん「182、273、364は、どんな数なのかな。」
陸斗さん「例えば364は、選んだ2数の5と9の差である4と関係があるかもしれないね。」
夏帆さん「選んだ2数の差の何倍かになっていないかな。」

手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値は、選んだ2数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。7ページの陸斗さんの予想のように、下の□に当てはまることならを「～は、～になる」という形で書きなさい。

手順にしたがってできたAとBについて、

(正答例)

・ $A-B$ の値は、選んだ2数の差の91倍になる。

(誤答例)

- ① $A-B$ の値は、選んだ2数の差の9倍になる。
- ②選んだ2数の差の91倍になる。

<誤答の傾向>

- ①予想される事柄について、成り立たない事柄を記述している。式を適切に変形したり、式の意味を正しく読み取ったりすることに課題がある。
- ②解答に、「 $A-B$ の値」という言葉が不足している。そのため何の値が「選んだ2数の差の91倍」になるのかを明確にできていない。

調査結果 ※本市の結果のうち、赤は全国平均を下回ったもの

<平均 I R Tスコア・平均正答数> <領域別平均正答数>

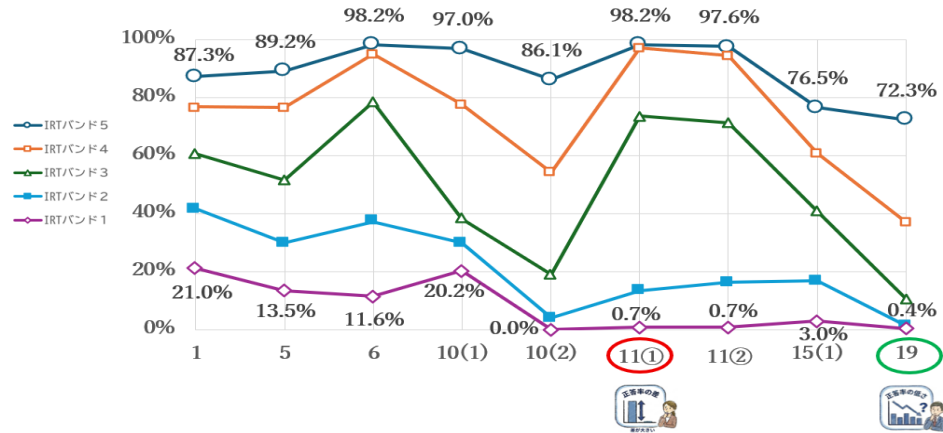
	大分市	大分県	全国
IRTスコア	492	483	499
正答数	4.3/9	4.1/9	4.5/9

領域	大分市	大分県	全国
聞くこと	1.1/2	1.1/2	1.2/2
読むこと・書くこと	2.6/5	2.5/5	2.6/5
話すこと	0.6/2	0.6/2	0.7/2

<IRT バンド別 問題ごとの正答率>

中学校英語科における IRT バンド（1～5）の問題ごとの正答率をグラフ化したものである。「正答率の低い問題」と「IRT バンドの差が大きい問題」をアイコンで示している。

問題番号	1	5	6	10(1)	10(2)	11①	11②	15(1)	19
正答率 (%)	大分市 58.6	50.9	68.1	46.8	24.2	58.4	57.8	39.9	16.9
	全国 60.2	55.6	67.3	47.5	27.8	58.9	52.7	42.3	25.8



<指導改善のポイント>

本問題についての解答傾向としては、IRTバンド5及び4に属する生徒全体の正答率が98.7%である一方、IRTバンド2及び1に属する生徒全体の正答率が4.2%であることから、低学力層の生徒が、与えられた情報に基づいて、過去の出来事を説明する英文を書くことができていないことが分かる。過去形の使い方を理解し、その知識を活用して書くことができるようになるためには、過去形を指導した単元以降の単元においても、コミュニケーションを図る言語活動において繰り返し活用させることが大切である。

- (支援の工夫)
- ・ 小学校で学習した過去形を含む文を用いて指導者が話したり、生徒とやり取りしたりする。【意味や使い方の気付きの促し】
 - ・ 書かせた後は、英文をペアで確認させたり、共通の誤りについて全体で指導したりする。【誤りの修正】

課題が見られる問題

【学習指導要領における領域】書くこと ア
【出題の趣旨】不規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けているかどうかをみる。



【11①】 正答率 58.4%

IRT バンド5 98.2%	IRT バンド2 13.3%
IRT バンド4 97.1%	IRT バンド1 0.0%
IRT バンド3 73.5%	

留学生のメイ(Mei)に**昨日の出来事**について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。
【表】を見て、例を参考にしながら、①**メイが行った場所**、②**メイがしたことを**、それぞれ英文1文で書きなさい。
【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄> ※半角で入力してください

例 Mei got up at seven.

①

②

(正答例)
・Mei went to the park. / She went to the park.

- (誤答例)
- ① Mei go to the park. / Mei is going to go to the park.
 - ② Mei want to the park. / Mei wants to park.
 - ③ Mei going to the park. / Mei been to the park.

<誤答の傾向>

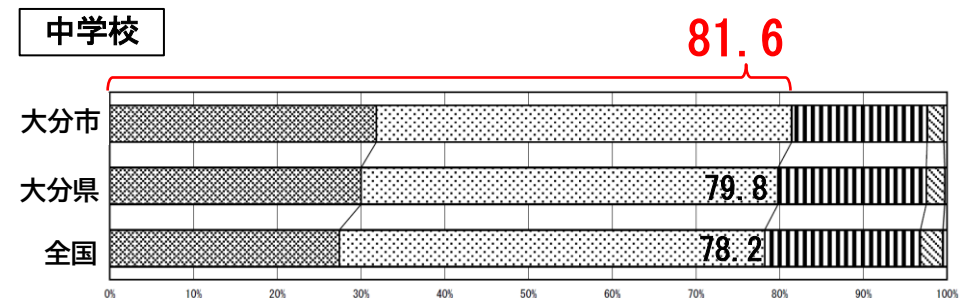
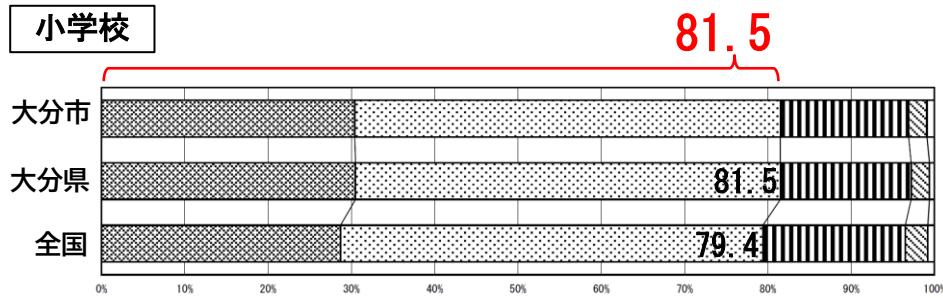
- ① 正しい語順で書くことはできているが、過去のことにについて書くことを理解できていない。
- ② 動詞のwentとwantを混同して解答している。
- ③ 書くべき内容を理解できていない、あるいは「主語＋動詞」という文構造が理解できていない。

主体性 自分で学び方を考えて工夫すること

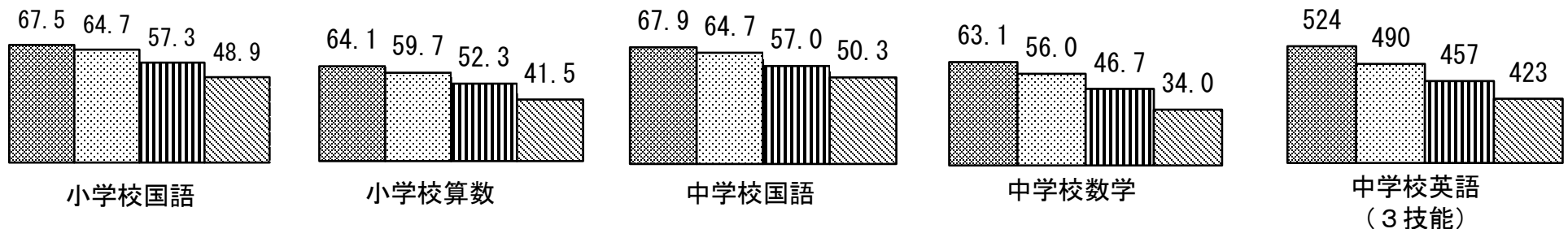
(2) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

できている
 どちらかといえば、できている
 どちらかといえば、できていない
 できていない

■肯定的回答率



■選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校81.5%、中学校81.6%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 「自分で学び方を考えて工夫すること」ができていると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

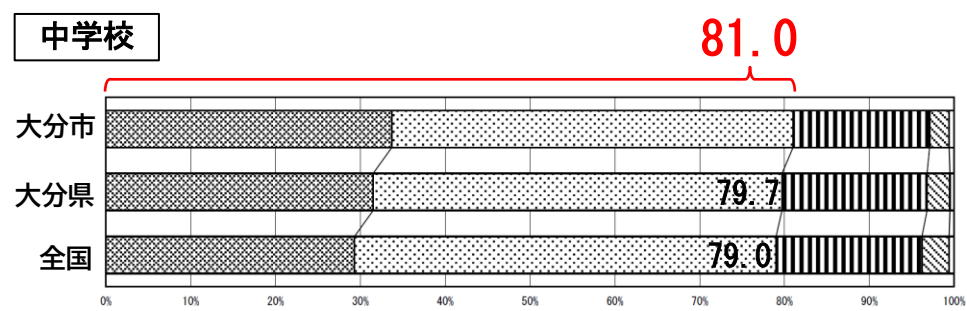
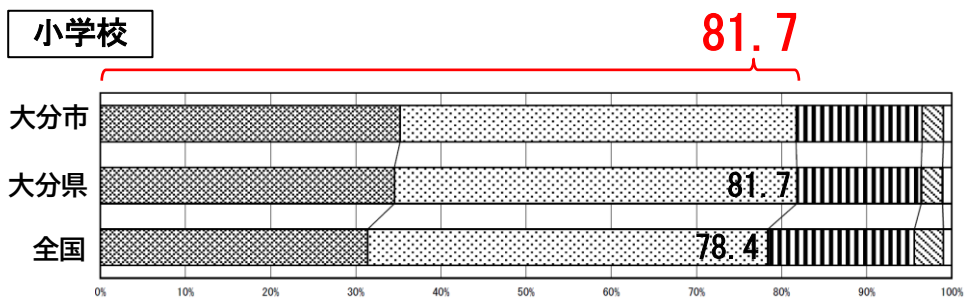
※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

主体性 学習した内容を見直して次の学習につなげること

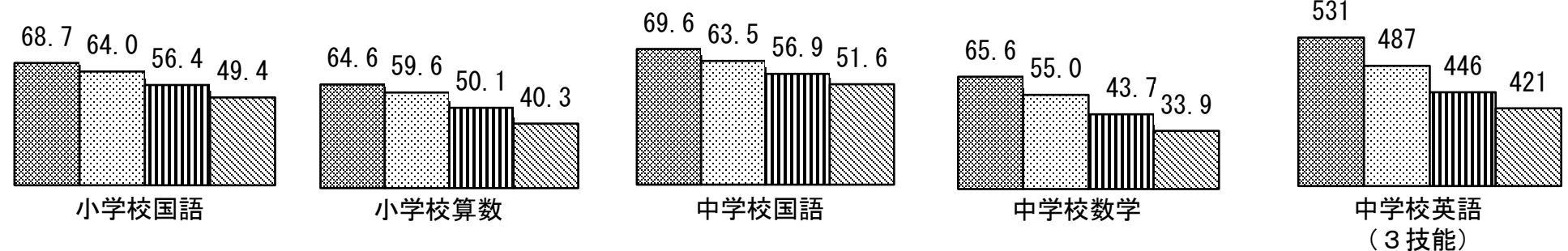
(3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

肯定的回答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校81.7%、中学校81.0%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 「学習した内容を見直して次の学習につなげること」ができていると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

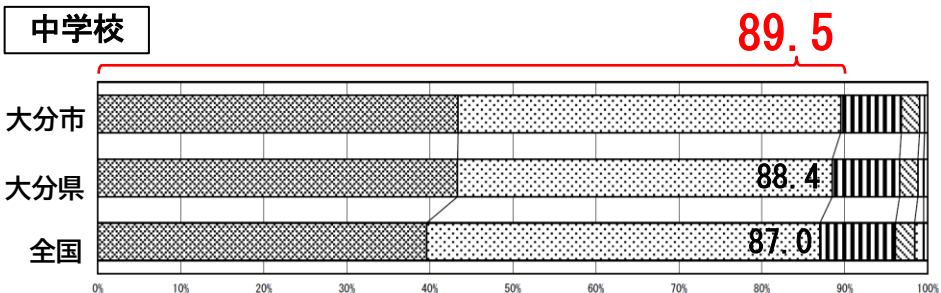
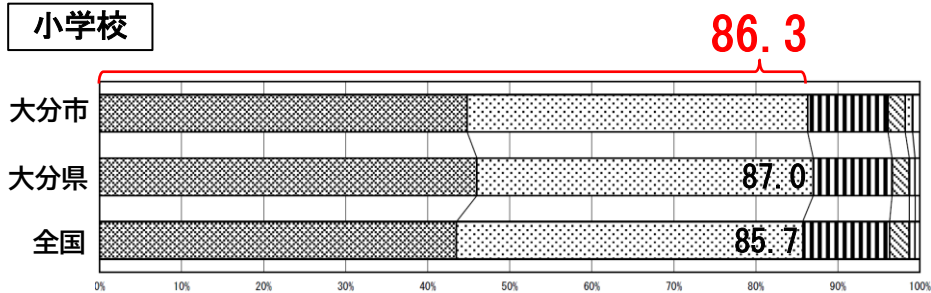
協働性

話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりすること

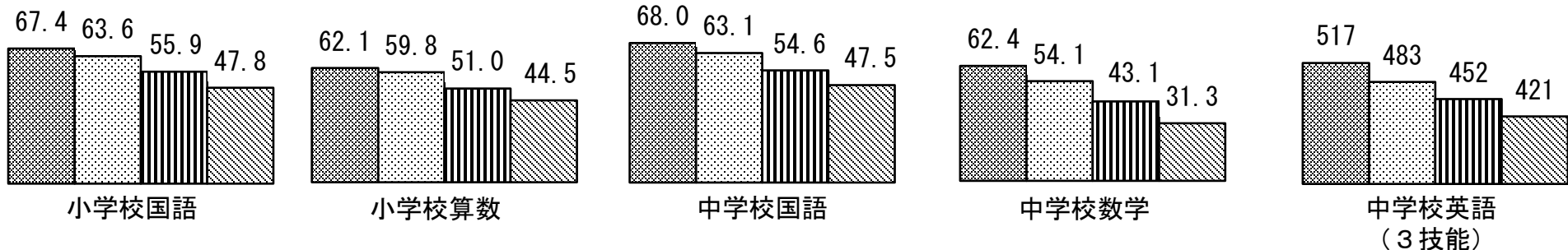
(4) 学級の児童(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

肯定的回答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校86.3%、中学校89.5%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 「話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりすること」ができていると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

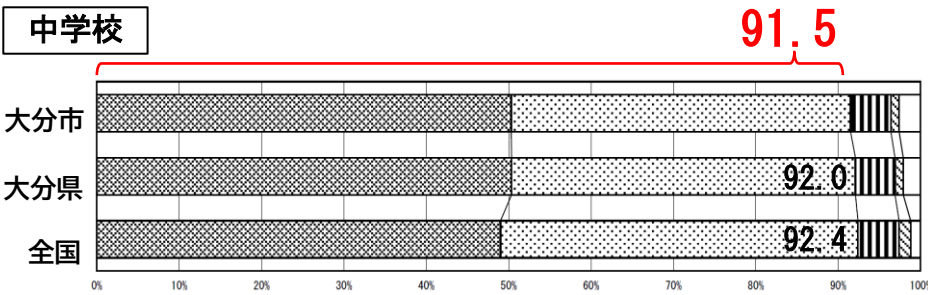
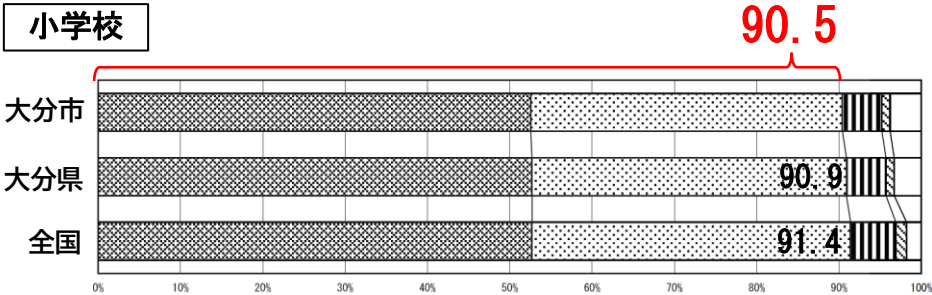
※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

協働性 周りの人の考えを大切にしてお互いに協力すること

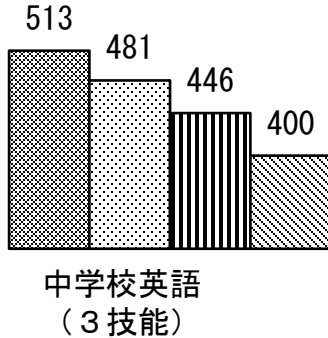
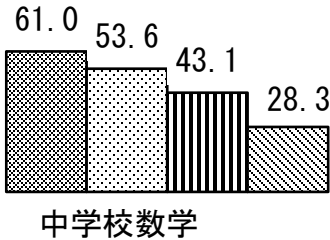
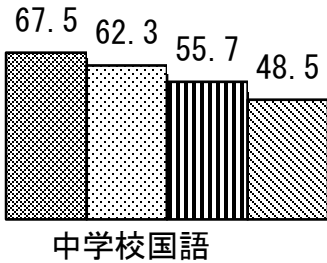
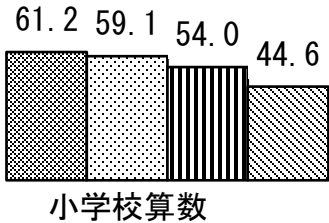
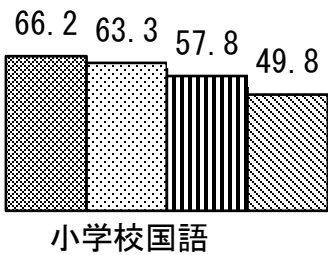
(5) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

肯定的回答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校90.5%、中学校91.5%であり、小中学校いずれも全国平均をわずかに下回っている。
- 「周りの人の考えを大切にしてお互いに協力している」と考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

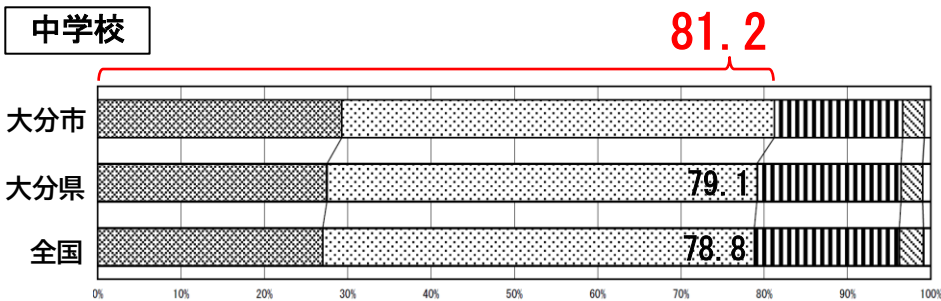
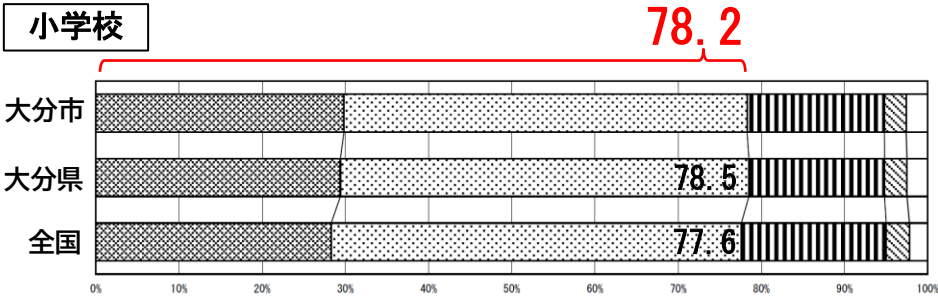
課題設定・解決能力

課題の解決に向けて自分から取り組むこと

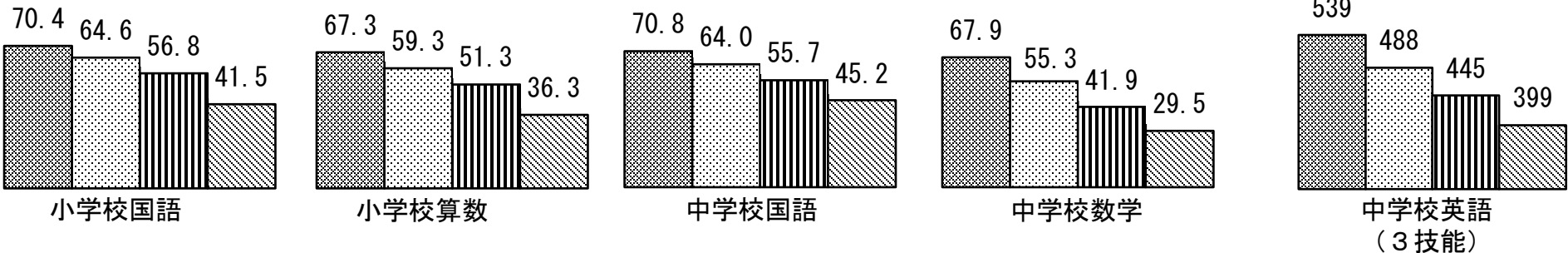
(6) 5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

■ 肯定的回答率



■ 選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校78.2%、中学校81.2%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 「課題の解決に向けて自分から取り組んでいる」と考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

課題設定・解決能力

総合的な学習の時間に探究的な学習に取り組むこと

(7) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

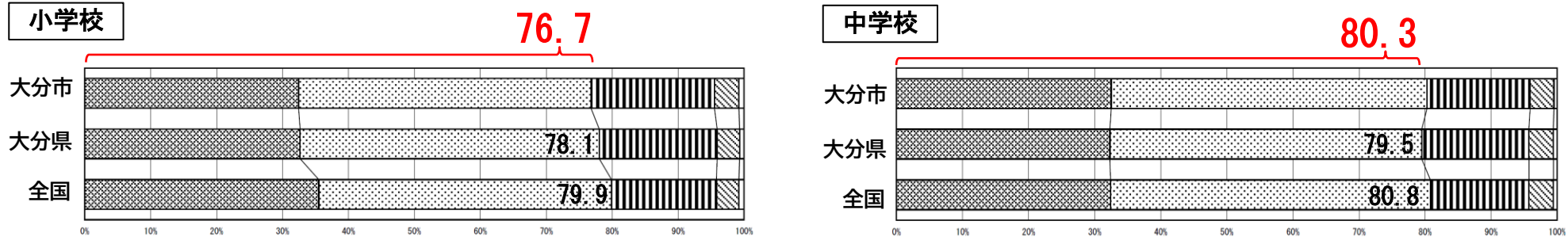
■ 当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまる

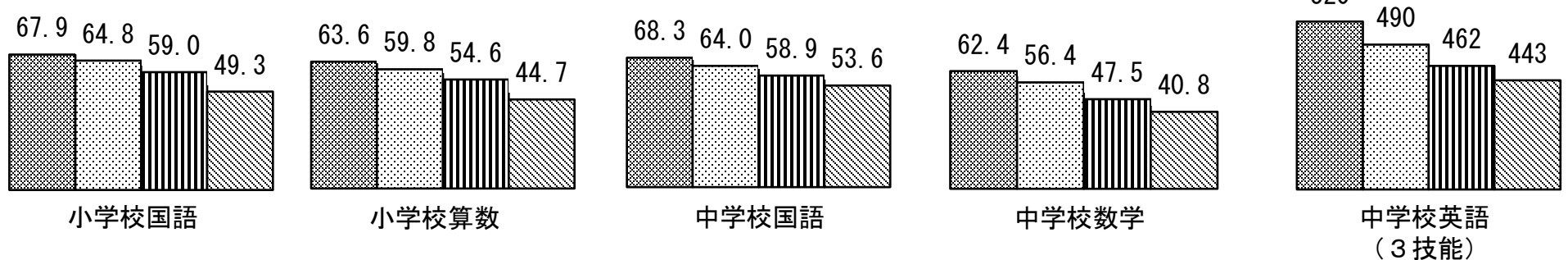
■ どちらかといえば、当てはまらない

■ 当てはまらない

肯定的回答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校76.7%、中学校80.3%であり、小中学校いずれも全国平均をわずかに下回っている。
- 「総合的な学習の時間に探究的な学習に取り組んでいる」と考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

課題設定・解決能力

と相関関係が見られること

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



質問調査の項目	相関係数 (小学校)	相関係数 (中学校)
授業では、各教科などで <u>学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動</u> を行っている	0. 602	0. 606
自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、 <u>学習したことを振り返っている</u>	0. 561	0. 478
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、 <u>次の学習につなげる</u> ことができている	0. 552	0. 537
国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、 <u>自分の考えをまとめている</u>	0. 542	0. 405
総合的な学習の時間では、自分で <u>課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動</u> に取り組んでいる	0. 526	0. 472

※相関係数・・・2つの変数の間の関係の強さを数値（-1から1）で示した値。
1に近いほど強い正の相関が見られ、
一般的に 0.7 ～ 1.0：強い相関がある
 0.4 ～ 0.7：相関がある
 0.2 ～ 0.4：弱い相関がある
 0 ～ 0.2：ほとんど相関がない とされている。

- 児童生徒の「課題発見・解決能力」に関する回答と「各教科の授業展開」に関する回答の間には相関が見られる。
- 授業において「学んだことを生かしながら考えをまとめる活動」や「学びを振り返り、次の学習につなげる活動」が「課題発見・解決能力」の育成に好影響をもたらしている可能性がある。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

粘り強さ

分からないときにあきらめずに考えること

(8) 5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか

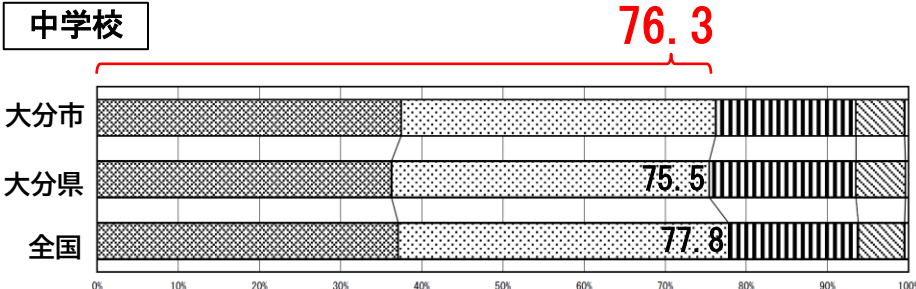
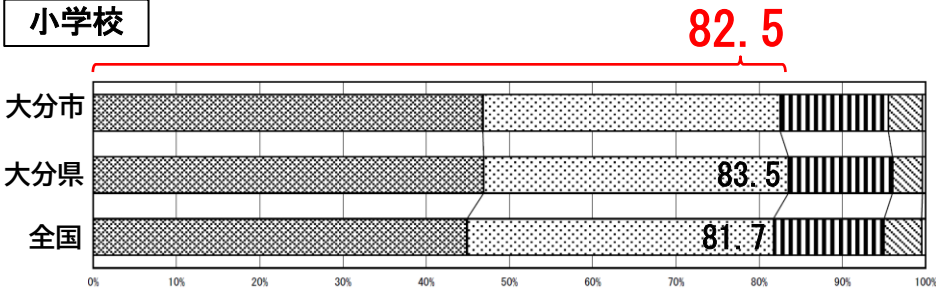
■ 当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまる

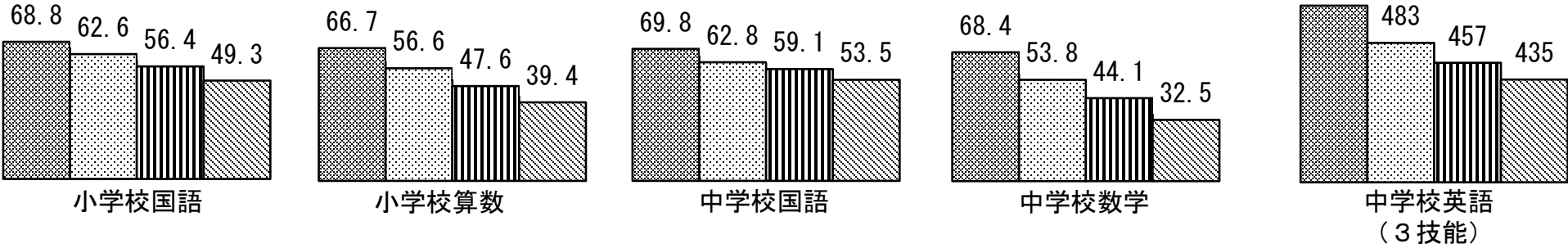
■ どちらかといえば、当てはまらない

■ 当てはまらない

肯定的回答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア〔クロス集計〕



- 「5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校82.5%、中学校76.3%であり、小学校は全国平均を上回っているが、中学校はわずかに下回っている。
- 「分からないときにあきらめずに考えている」と考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

粘り強さ

と相関関係が見られること

授業では、算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている

課題は終わるまでやり通す

×

質問調査の項目	相関係数 (小学校)	相関係数 (中学校)
算数(数学)の授業で学習したことを、 <u>普段の生活の中で活用</u> できている	0. 572	0. 485
算数(数学)の授業で、 <u>どのように考えたのかについて説明する活動</u> をよく行っている	0. 535	0. 509
自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、 <u>学習したことを振り返っている</u>	0. 517	0. 406
<u>問題の解決策</u> を見つけることは好きだ	0. 516	0. 415
授業では、 <u>課題の解決</u> に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	0. 514	0. 448

※相関係数・・・2つの変数の間の関係の強さを数値（-1から1）で示した値。
1に近いほど強い正の相関が見られ、
一般的に 0.7 ～ 1.0：強い相関がある
 0.4 ～ 0.7：相関がある
 0.2 ～ 0.4：弱い相関がある
 0 ～ 0.2：ほとんど相関がない とされている。

- 児童生徒の「粘り強さ」に関する回答と「各教科の授業展開」に関する回答の間には相関が見られる。
- 授業において「日常の場面や社会の事象と関連付けて考えたり説明したりする活動」や「課題の解決に向けて主体的に学ぶ活動」が「粘り強さ」の育成に好影響をもたらしている可能性がある。

今後の取組について

—令和8年度大分市学校教育指導方針「確かな学力の定着・向上」に基づいた取組

各学校における主な取組

○学力調査結果の分析・考察及び指導方法の工夫・改善

- ・ 調査結果に基づく校内での分析・共有(学力向上プランの見直しを含む)、「授業改善のポイント」に関する説明動画の視聴
- ・ 授業改善の取組の推進や個に応じた補充学習の充実
- ・ 学力向上会議の実施(学力向上プランや家庭・地域と協働して設定した取組内容等についての協議)
- ・ 探究的な見方・考え方を働かせる総合的な学習の時間の充実に向けた説明動画の視聴

教育委員会における主な取組

○分析ガイドの活用

- ・ 学力調査結果分析説明会や各学校の校内研修、各種研修会等における、分析ガイドの効果的な活用についての説明や協議
- ・ 本市作成の「授業力向上ハンドブック」「こどもが『わかった』『できた』と実感できる授業づくりQ & A」等を活用した各学校の校内研修等における指導・助言
- ・ 国語科をはじめとした各教科等における書く力の育成に関する指導・助言
- ・ 小学校全学年を対象とした国語科の授業視察、校内研修等における「書く力の育成」の説明【R5～】
- ・ 総合的な学習の時間を通じた資質・能力の育成(「主体性」「協働性」「課題設定・解決能力」「粘り強さ」等)

○教科指導マイスターの活用

- ・ 経験豊富で実績のある退職教職員を「教科指導マイスター」として各中学校及び義務教育学校に派遣(授業観察及び指導・助言)
- ・ 中学校第1学年を対象とした教科指導マイスター及び指導主事による5教科(国・社・数・理・英)の授業視察【R6～】
 ※教科担当指導主事との連携強化(小中学校の接続を踏まえた指導の充実)
 ※分析ガイドを活用した指導・助言
- ・ 各学校における学力調査結果分析会(教科部会)への教科指導マイスターの参加

○教員研修での指導

- ・ 大分市教育センター研修担当班と連携した小学校外国語教育実践研修及び中学校英語教育実践研修の実施
 ※効果的な指導の在り方等について演習を中心とした実践的な研修(各年2回)
 ※英語教育に係る小中連携した取組の推進に向け、第1回は小中合同で実施